

2024 年度 大阪北支部 事業報告書

1. 2024 年度支部活動の概要

支部活動の運営を検討する支部運営会議を11回開催することができた。また現在、本会広報誌「なにわだより」が年6回(偶数月)発行となったが、支部広報誌「キタ！からきた！だより」については、支部ブログページへの掲載、支部公式 LINE アカウント、Facebook などを活用し、毎月発行(12回)することができた。研修については、新型コロナウイルス感染症等の影響以降、オンラインリモート(Zoom)を適宜活用し、支部役員による研修や、スーパーバイザーをお招きして、「気づきの事例検討会」開催を目指した段階的なピアグループスーパービジョンを学ぶ研修を複数回対面形式で行うことができた。

また、認定審査会委員改選を見据え、広く支部会員に認定審査会委員活動を知ってもらうための実務的な内容の研修も継続して行えた。

2. 活動内容

(1) 支部運営会議 11回開催

会 場 大阪府社会福祉会館(会議室)及びオンライン(Zoom)によるハイブリッド型
開催日 4月19日、5月13日、6月18日、7月8日、8月9日、9月13日
10月25日、11月11日、12月16日、1月15日、2月17日

(2) 研修会

① 「気づきの事例検討会 2024」

スーパーバイザー：兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松真人 氏

第1回	7月15日	会場	ドーンセンター中会議室①	参加者	17人
第2回	9月21日	会場	ドーンセンター中会議室①	参加者	18人
第3回	11月9日	会場	ドーンセンター大会議室③	参加者	19人
第4回	1月11日	会場	ドーンセンター中会議室②	参加者	15人
第5回	3月15日	会場	ドーンセンター中会議室①	参加者	15人

② 「きくをまなぼう」

講師：ソーシャルワーク&カウンセリング「きくまなぶ」 主宰 高落敬子 氏

8月24日 会場 大阪府社会福祉会館 参加者 21名

③ 「認定審査会ってどんなところ？」

講師：大阪社会福祉士会 大阪北支部 相談役 小笠原範昭 氏

大阪社会福祉士会 大阪北支部 支部長 横田隆作 氏

9月28日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 25人

④ 「折れない心を育てるいのちの授業」

講師：大阪社会福祉士会 大阪北支部 副支部長 田中宏幸 氏

2月15日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 17人

⑤ 大阪社会福祉士会 基礎研修Ⅰ(事前課題4)

「所属組織以外のソーシャルワーク実践について学ぶ」への協力講義

講師：田中宏幸 氏

10月12日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 15人

講師：水流添真 氏

10月18日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 14人

講師：横田隆作 氏

11月16日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 15人

講師：齋藤美智 氏

11月27日 会場 オンライン(Zoom)

参加者 13人

講師：田上結稀 氏

12月14日 会場 ポリフォニー

参加者 10人

(3) 支部広報誌「キタ！からきた！だより」 12回発行

・奇数の月(公式LINEアカウント、支部ブログ、Facebook)

・偶数の月(紙媒体、公式LINEアカウント、支部ブログ、Facebook)

(4) その他

① 本会各事業部会・委員会等の推薦

4月19日 子ども家庭福祉プロジェクト委員

1名推薦

6月18日 子ども家庭福祉プロジェクト委員

1名推薦

大阪市介護認定審査会委員

17名推薦

大阪市障がい支援区分認定審査会委員

11名推薦

② 名刺交換会 2024

11月23日 会場 イタリアン SASUKE

参加者 25名

3. 評価とまとめ

2024年度の支部活動は、オンラインリモート（Zoom）使用と少人数による会場集合との両立（ハイブリッド形式）を中心に会議を継続実施してきた。

学びについては、「気づきの事例検討会」開催を目指したピアグループスーパービジョンを学ぶ研修を集合対面型で実践的に実施し、ソーシャルワーカーとしての資質を高めるための取り組みを継続しておこなった。加えて、面接技法にも通ずる「聴かせていただくことを学ぶ」研修会や、多くの支部会員に認定審査会委員について興味関心を持っていただくことを目標に、概要や実務的なことも踏まえた研修会を外部講師や、支部役員にて実施した。

支部広報誌では、地域で活躍する支部会員を紹介するコーナーの掲載を継続し、社会福祉士の様々な取り組みや広範な業務を紹介することができた。また、支部会員へ情報を新鮮なうちに届けるため、Facebook、大阪北支部ブログ（ホームページ）の定期配信に加え、新たなツールとして運用を開始した「大阪北支部公式 LINE アカウント」の登録会員も徐々に増加してきたため今後、支部会員の関心を高めスピード感のある情報共有に期待していきたいと考える。